


野生イノシシ豚熱経口ワクチンの野外散布及び回収工程について

説明	写真（イメージ）
<p>○経口ワクチン散布時の服装</p> <p>散布作業者は、防疫服又は防疫服に準じた服装を着用し、豚熱ウイルス等の拡散を防ぎます。 （例：「不織布つなぎ」及び「不織布のズボン・エプロン・アームカバー」を着用して作業します）</p>	
<p>○経口ワクチン散布作業</p> <p>散布する経口ワクチンは、ワクチンの外側をトウモロコシ粉で固めたものです。 この経口ワクチンは、国から配布されたものであり、人が触れても安全上問題はなく、環境に悪影響を与えないとされているものです。</p>	 <p>写真: ©Federal Ministry of Food and Agriculture, Germany</p>
<p>半径2～5mの範囲内に、スコップ等で経口ワクチンを埋める散布穴を10穴掘ります。</p>	

説明	写真（イメージ）
<p>1穴につき2個の経口ワクチンと餌（米ぬか、圧ペントウモロコシ混合）を入れます。</p> <p>穴を埋め戻し、周囲に石があれば穴の上に置きます。穴の周辺には米ぬかを撒きます。</p>	

○経口ワクチンの回収作業

一部散布地点では散布後約3週間以内に、散布地点の掘り返しの形跡を確認し、周囲に落ちている経口ワクチン殻を回収します。

回収したワクチン殻を観察し、イノシシが摂食したと思われる数を調べ、散布方法や地点の改善を随時行っています。



イノシシが摂食したと思われる、経口ワクチンの外包
(すりつぶしたような歯形がついています)



タヌキ等小動物が摂食したと思われる、経口ワクチンの外包
(前歯で開けたような小さい穴がついています)